

左義長まつり

「左義長まつり」は 400 年以上の歴史を持つ、華やかでドラマチックな祭典だ。近江八幡に春を告げる、毎年行われるこの祭りの目玉はその年の干支をあしらった高さ 8m の「左義長」である。カラフルな法被を身にまとった賑やかな集団が左義長を担いで町をめぐり、2 チームの押し合い・力比べである「けんか」が行われる。クライマックスでは、左義長を燃やして神に供え、その炎のまわりを参加者が踊り歩く。左義長まつりは各左義長が特定の町の住民によって作られ、運ばれるというコミュニティの誇りの表現である。また、左義長の豪華絢爛な姿と規模を商家の資金力が可能にしたものであるため、近江八幡の商業の歴史も反映している。国選択無形民俗文化財であり、3 月 15 日に近い週末の 2 日間にわたって行われる。